

京都工芸芸繊維大学開学 120 周年・創立 70 周年記念 京都工芸繊維大学同窓会主催 (近畿支部担当) 見学会 写真



旧本野精吾邸



旧鶴巻鶴一郎

令和元年9月28日(土)に、晴天の下で見学会を開催致しました。多数のご参加ありがとうございました。通常非公開の建物ですが、本学デザイン・建築学系助教笠原一人氏(1998年大学院修了)にご尽力頂き、素晴らしいモダニズム建築2棟を見学することができました。先生には講演と案内もして頂きました。



旧鶴巻鶴一郎見学の集合写真 (後半から参加の方は含まれていません)



表門を通り1階入口から見学



笠原一人先生



講演会風景(旧鶴巻邸1階居室にて)ほかでは聴けない歴史、作品背景などに聴き入っていました。

本野氏作品として有名な
円形のテーブル、椅子、出窓など ➡





笠原先生の講演に聴き入っているところ



見学を終えて笑顔で門を出たところ



旧本野邸の入り口風景



旧本野邸の説明を拝聴されているところ



現在ここをご使用で当日案内を頂きました建築家木村吉成様。表札は本野を残されています。

見学会にご参加の若林信義様(1967年繊維化学科卒)から寄稿頂きました。

「一昨日 母校の開学創立見学会に参加させていただきました。参加者は、京都工芸繊維大学助教笠原一人氏、KIT 同窓会から河島副会長、八田副会長や、元会長の三好様など定員 40 名のところ 35 人の大勢の方々が集まりました。そのうち建築関係の方は 16 名程で、小生も含めて直接建築関係外の方も大勢参加されました。

日時は 2019 年 9 月 28 日の 12:30~17:00 頃までです。行程と時刻は、12:50~14:30 に旧鶴巻鶴一郎を見学。15:40~16:20 に旧本野精吾邸を見学しました。17:00 以降に、近くの喫茶店でミーティングの時間を持ちました。笠原一人先生を囲んでディスカッションをし、それを通じて参加者の交流も深めました。

① 旧鶴巻鶴一郎について

当時染色関係での第一人者、莫大な資産を持ち京都高等工藝学校校長としての地位が揺るがない鶴巻氏は高台にあってなおかつ疎水の流れる絶好の土地に、当時としては珍しいモダリズム建築の豪邸を 1929 年に竣工させている。コンクリートブロックをむき出した、それこそ従来からの数寄屋建築からは正反対のイメージを持つ建築の新鮮さに心が打たれる。その建築家は当時新進気鋭のやはり京都高等工藝学校の教授、本野精吾氏である。

見学を終えた後、地下鉄とバスを乗り継いで移動し、旧本野精吾邸を見学する。

② 旧本野精吾邸について

閑静な住宅地にそれこそこじんまりした、やはりコンクリート造りのコンパクトを旨とする自邸を建てている(1924 年築)。竣工前の関東大震災(1923 年)の際、木造建築の脆弱性を反省しての発想の転換があったかもしれない。旧鶴巻邸に比べれば、その広さは十分の一あるかどうかで、比較にならないが、和室がない点が共通しているかもしれない。

本野精吾氏が設計されたその他代表的な設計建物は旧西陣織物館、京都高等工藝学校本館等も挙げられる。そのうちのいくつかが国や京都の登録有形文化財に登録されていますが、特に旧鶴巻邸は現在誰か引き取り手を探しているとのこと。例えば日本電産株の永守重信会長あたりに買っていただけないだろうか。彼は京都先端科学大学の運営に力を注いでおられますので、大学のセミナーハウス等に考えて頂ければありがたいですね。

③ 三好元会長や、河島さんとか、大勢の OB の方々が同窓会活動を活発にやっておられることに、日ごろから敬服している次第です。森迫清貴学長が日頃言っておられる「知っている人は、知っている大学」から、国内外で「誰にも知られている大学」にさらに飛躍をしていってほしいものです。

皆さん ありがとうございます。大変有意義な半日を過ごすことが出来ました。

早々